

●千葉県千葉市立高洲第三小学校

少人数指導の学習プリントをはじめ、しおりや各種通信にも活用

「見やすく、分かりやすい」2色プリントで学習意欲がアップ。

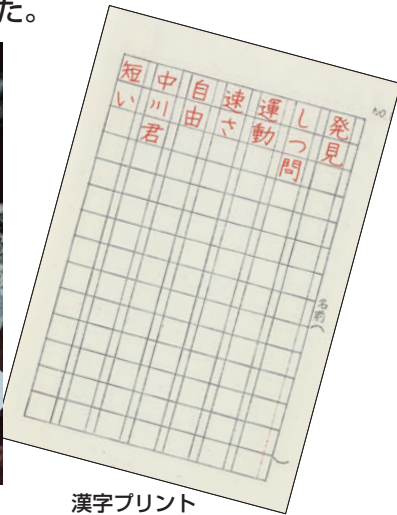
理想教育財団では、平成17年度から学習プリントや各種通信・新聞など幅広い分野で活用できる「2色デジタル印刷機」の助成を実施しています。今回は、昨年6月から研究に取り組んだ千葉県千葉市立高洲第三小学校を訪問、その実践について伺いました。



石橋一夫校長先生
(現千葉県立千草台小学校校長)



作成したプリントで学習



漢字プリント

夢に向かう
子どもたちを後押し

昭和49年に開校した千葉県立高洲第三小学校。児童数約660人の小学校で、学校教育目標は「夢ひらき かがやく子」。個性を磨き、夢に向かって一歩一歩努力する人間に育ってもらいたいとの思いをこめて、日々の教育活動を展開しています。

地域との連携・協力も熱心で、校外での体験学習を幅広く実施しているのが同校の特徴です。



印刷機を操作する伊藤繁徳先生

「1年生から6年生まで、学年ごとに企業訪問や自然体験の機会を設け、まちの自然や環境、さらには歴史や産業などを学ばせています。特徴的なのは5年生の海洋教室です。本校のある地域は、もともと埋立地ですし、近くにヨットハーバーもある。海と関連が深い地域性を子どもたちに学習させた」と、総合的な学習の時間を利用して、ヨット体験を実施しています」(石橋一夫校長先生)。

色の変化が学習の動機付けに

この体験学習と併せてとりわけ力を注いでいるのが、少人数によるきめ細かな指導です。全学年で

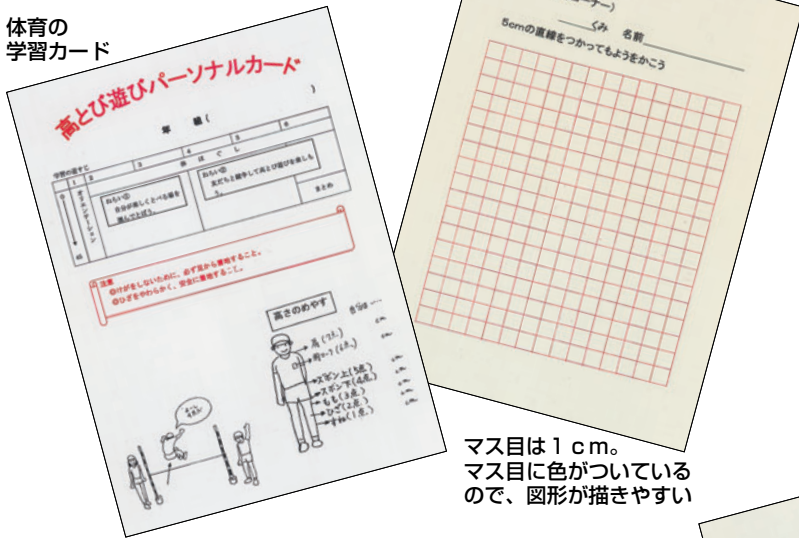
課題別少人数指導に取り組んでいます。従来から、子どもたちの理解が深まるように、個人の課題に合った学習プリントを作成してきましたが、2色デジタル印刷機を活用した研究に取り組むにあたって、まず手がけたのが、「より効果的なプリントづくり」でした。「強調したいところは色を変える。すると子どもたちの意識もおのずとその部分に集中します。たとえば文章問題が苦手な子どもは、黒一色の文章を読むだけで、学習意欲が減退することがありますが、色に変化を与えることで、好奇心や関心がひきつけられ、学習の動機付けになるようです。特に低学年では効果が高いですね」(石橋校長先生)。

具体的には、算数のプリントは問題と答えを色分けにする。漢字の学習プリントは、手本の文字を赤くし、鉛筆でなぞることができるところにするなど工夫しています。

忙しい保護者あての通信も2色でメリハリを

学習プリント以外にも、冬休みのしおり、子どもたちへのアンケート用紙など、用途や目的にあわせて2色プリントが作成されてい

体育の
学習カード

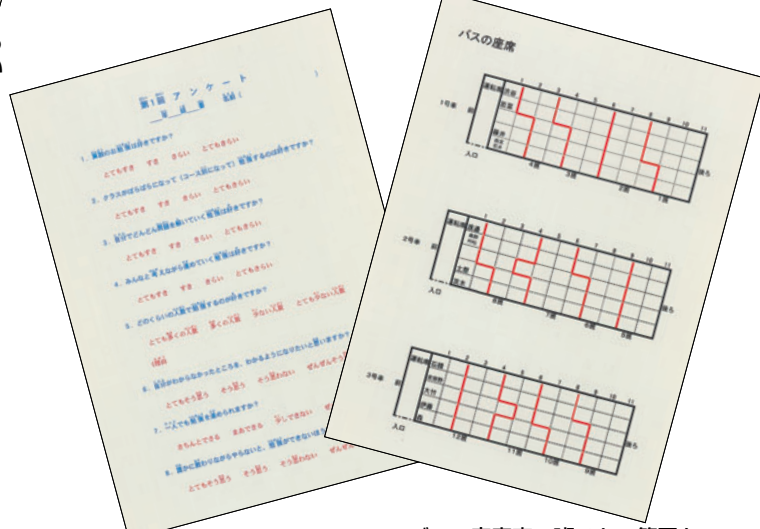


マス目は1cm。
マス目に色がついている
ので、図形が描きやすい

給食のメニュー。カラフルでわかりやすい



5年生学年だより



子どもたちへのアンケート用紙。
問いと答えで色を変えている

バスの座席表。班ごとの範囲を
明示。班員同士で座席を決める
のに使用

「使っているうちに、新しい使い
方など、さまざまな発見やアイデ
アが出てきます。そのアイデアは、
なるべく他の先生たちと共有する
ようにしています。打ち合わせな
どの機会で自分がわかることを先
生たちに教える。逆にわからない

約1年間、2色デジタル印刷機
は、このようにさまざまな機会に
使われてきましたが、その背景に
ついて、同校の伊藤繁徳先生は次
のように言います。

「使ううちに、新しい使い
方など、さまざまな発見やアイデ
アが出てきます。そのアイデアは、
なるべく他の先生たちと共有する
ようにしています。打ち合わせな
どの機会で自分がわかることを先
生たちに教える。逆にわからない



高洲第三小学校外観

ことは他の先生から教わる。そう
することで、先生方の技術の習得
にもなるし、使っていない先生も、
私もやってみようという意欲をも
つようになります」。

また、石橋校長先生は、「伝え
たいものは何かで、プリントのつ
くりかたも変わります。たとえば、
写真を多く掲載するたよりの場合
は、レーザープリンターでカラー
印刷。大事な文章をばつと見ても
らいたい場合は2色。そのように
目的に応じて、使い分けることも
大事です」と話してくれました。

※肩書き等は取材時(3月末時点)のもの
です。